



平成23年7月28日

各 位

会 社 名 株式会社ウィル  
 代 表 者 名 代表取締役社長 岡本 俊人  
 (コード番号：3241)  
 問 合 せ 先 代表取締役 栗野 泉  
 役 職 ・ 氏 名  
 電 話 0797-74-7272

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成23年2月18日に公表した連結業績予想並びに平成23年4月15日に公表した個別業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成23年12月期第2四半期累計期間業績予想数値の修正（平成23年1月1日～平成23年6月30日）

##### (1) 連結業績予想数値の修正

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	1,474	79	50	42	円 銭 3,729 09
今回修正予想 (B)	1,002	79	52	47	4,158 41
増減額 (B - A)	△472	0	2	4	—
増減率 (%)	△32.0	0.5	4.5	11.5	—
(ご参考)前年同期実績 (平成22年12月期第2四半期)	1,122	48	11	4	438 90

##### (2) 個別業績予想数値の修正

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	1,370	46	59	51	円 銭 4,516 68
今回修正予想 (B)	866	37	52	46	4,107 20
増減額 (B - A)	△503	△9	△7	△4	—
増減率 (%)	△36.8	△19.7	△12.9	△9.1	—
(ご参考)前年同期実績 (平成22年12月期第2四半期)	1,069	9	4	△3	△352 37

#### 2. 業績予想修正の理由

##### (1) 第2四半期

当連結会計年度におきましては、前年度より取り組んでまいりました事業構造転換による収益力の向上を更に推し進め、フィービジネス並びにリフォーム事業を収益の柱と位置付け、経営資源を集中させることにより安定した収益基盤の確立と財務体質の改善、強化に努めてまいりました。これにより、収益性の面においては一定の成果をだすことができました。

しかしながら、連結売上高につきましては平成23年3月11日に発生した東日本大震災による影響によ

りリフォーム事業において受注工事の完成及び引渡しの一部遅延したこと、また、開発分譲事業において販売計画に遅れが生じたことにより前回予想を下回る見通しとなりました。これにより、連結売上高は前回予想より472百万円減少して1,002百万円に、営業利益は変わらず79百万円、経常利益は2百万円増加して52百万円に、当期純利益は4百万円増加して47百万円となる見込みでありますので、それぞれ修正をさせていただきます。

売上高減少の主たる要因といたしましては、ひとつには先の震災による影響を受けたリフォーム事業の一部工事遅延によるものであります。震災により生産設備に甚大な被害がもたらされたことによる建築資材並びに住宅設備機器の生産停止や、サプライチェーンの寸断等により、一時的な資材調達不足が発生し、一部の受注物件の工期に大幅な遅延が起こったことが原因であります。これにより、リフォーム事業においては売上高が前期比10.1%減、営業利益が同33.2%減となっております。

しかしながら、好調な流通事業による不動産売買仲介の影響もあり、新規の工事請負契約は堅調に推移していることから、前連結会計期間末の請負契約残高156百万円に対し、当第2四半期連結会計期間末の請負契約残高は272百万円と7割以上も増加している状況にあります。また、現在においては供給体制、サプライチェーンも回復し、正常に資材調達ができる環境となっておりますので、今後、工期の遅延は順次解消する見通しであり、通期業績に与える影響はないものと判断しております。

売上高減少のもうひとつの要因は、開発分譲事業における販売計画の進捗に遅れが生じたことによっております。具体的には、戸建分譲物件7戸、分譲マンション物件4戸が計画に対して未達となっており、計画の前倒しとして土地2物件の売却を実施いたしました。不足分を補うまでには至らず、開発分譲事業においては売上高が前期比28.2%減、また、営業損失を計上することとなりました。

その一方で、事業収益の柱のひとつである流通事業を中心としたフィービジネスに関しましては、好調を維持しており、流通事業においては売上高が前期比18.0%増、営業利益が同24.9%増となり、不動産取引派生事業においては売上高が前期比48.1%増、営業利益が同64.3%増と、両事業共に2桁の増収増益となったことから、リフォーム事業及び開発分譲事業の遅れをカバーし、グループ全体の経常利益及び四半期純利益は前回予想を上回る結果となりました。

なお、個別業績予想におきましても同様の理由により修正を行っております。

## (2) 通期

通期の見通しにおきましては、流通事業を中心としたフィービジネスにおいて引き続き好調を維持するものと予測しており、同事業群の収益面においては業績予想通りまたは業績予想以上の結果を見込んでおります。

また、リフォーム事業の遅れにつきましては、前述の通り、請負契約残高が順調に積みあがっていること、資材調達環境も正常に回復していることから、第3四半期連結会計期間末ないし第4四半期の始めには予想数値に追いつく見込みであり、通期業績には影響を及ぼさないものと判断しております。

なお、これらの見込みにより開発分譲事業の販売計画に対する進捗の遅れに関しましては、利益面におけるカバーは十分に可能な範囲であると判断しており、また、売上面に関しても利益面の充実を背景に、計画以上の販売促進活動、販売促進施策を充足させることが可能となったことで、販売の進捗は大きく改善するものと判断しております。

以上のことから、通期業績予想の修正は行っておりません。

以上

ご注意 : 上記の予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づき作成しております。  
実際の実績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。